

今月のテーマ：松之山！必殺！仕事人！

地域おこし協力隊が所属している各地域で頑張る人・グループを紹介！地域での活動内容や、地域おこし協力隊との関わりについて紹介します。

浦田地区



△弁当作りの様子



△元気村の弁当



△青年団



△浦田チャンネルQR

皆さんこんにちは、松之山のいたるところに出没する平本大輔です。今回からは浦田でいろいろな活躍をするグループを紹介していきます。まずは元気村、浦田の元気なお母さんたちが集まり毎月1回弁当を作り浦田の人たちに配達をしています。基本的には浦田の皆さんは元気ですがお母さんたちはもってパワフルで浦田に来た当初はともびつくりしました（笑）そんな元気なお母さんたちが作る弁当はすぐくポリューミーで食べ応え抜群！おいしい！パワフルなお母さんたちの雰囲気そのまま出てるような弁当で浦田中で大人気です。

次は青年団、浦田の若者たちのグループです。先月の2月12日に松之山スキーカーニバルで豚汁を出店し僕もその時に下準備と当日の販売に参加させていただきました。当日の豚汁を売り出した時はものすごい活気があり、和気あいあいと豚汁を販売していました。スキーカーニバルだけではなく浦田のいろいろな行事にも積極的に参加し、浦田をより一層盛り上げてくれるグループです。今年こそはコロナも緩和され去年出来なかった浦田での行事も増えてくると思います。そんな時に活躍してくれる浦田の人たちは僕にとってすごく頼もしい存在です。



浦田の活躍グループ

担当 平本 大輔

松之山かわら版

Matsunoyama Kawaraban

Vol. 02

2023年3月

編集

ローラン・アントワーズ
上村祥太郎
志水八千代
平本大輔

「松之山かわら版」は、
松之山の地域に所属して
いる地域おこし協力隊の
活動広報誌です。

川手地区



森森市直売所チーム

担当 ローラン・アントワーズ

初めて美人林を歩いたとき、ブナ林の美しさと直売所の謙虚さの対比に興味をそられました。お昼の前にキハダのお茶とコゴミしか残っていなかったの

でそれを買いました。
下川手集落において、美人林の直売所は、集落の方々を、年齢を問わず、最も動員する活動です。

下川手集落は平成十年に、直売所に関わり始めました。旬の野菜や山菜を仕入れる約二十の生産者に市場が広がりました。

美人林からの観光客の流れを利用し、余っている野菜を捨てるのではなく、手ごろな値段で提供するという考えに端を発しています。

残念ながら、現在、二つの問題が生じています。高齢化とこれらの野菜を生産するための人材確保が難しくなったことです。第二の問題は新型コロナウイルスで店番をする方が少なくなりましたので有人市場から無人市場に変わりました。

それに従ってお金の回収率が悪くなってしまったことです。

収入面だけでなく、社会的絆を築き、集落の方々を団結させる活動であるように直売所の存続はとても大切だと思います。

将来的には、この直売所を維持して、地域経済を支えながら他の集落からの生産者や集落外の製品に拡大し続けることが大切です。これが必要きた場合、より多くの製品を収容するために、より大きな建物を再建することを検討する必要があります。また、この場所を通して新鮮な野菜やお米をオンラインで購入し続けられるよう、ネット販売を拡張することで高いポテンシャルがあると思います。



△森森市の新年会



△美人林前森森市

布川地区

入学準備の手さげやくつ袋、取れた制服のボタン、破れて穴のあいた体操着：時間のない中で頼まれるこの種のイレギュラーな母業を今まで私は常に「面倒なこと」と捉えながら嫌々こなしてきました。そんな私が昨年から地域のおかあさんたちとのつるしびな作りに参加しています。正直、裁縫は得意ではないけれどできなところを教えてもらいながら、普段の自分の生活とはまるで別世界なゆるりとした和やかな時間の中に身を置き針と糸を持つうちに、日常の中でもひとつの変化がありました。

三男の空手の道着にゼッケンを縫い付ける作業、今までは「面倒なこと」としか思えなかったのに縫い始めたら段々と「丁寧に」「楽しく」やろうと生まれて初めて思えました。手先があのかえりを感じていて順応し、適応して。言わずもがな、つるしびなのおかげです。



針と糸を持つこと
担当 志水 八千代



△つるしびな作りを教えてくれるきみこさん



△毎週火曜日の午後、布川カフェの様子

始まりは、「きみちゃんが作ってるつるしびな、作ってみたいね」という一声からだっと思います。だったら布川カフェでみんなでやろうよということになり、何やら布川の人たちがおもしろいことをやってるらしいと口コミで噂は広がり、今では布川地区以外から来てくれる方もいてありがたいことです。この一年間で多い時には総勢十四名のメンバーが週一で集う人気のサークルとなりました。

丁寧に生きることの意味、物事はすべて捉え方次第、何でも楽しくやったらもん勝ち、ここは私にとっていつも大事なことを気付かせてくれる大切な場所です。

黒倉集落



地域活性化を担う
黒倉集落のグループ
担当 上村 祥太郎

松之山のお土産店で見かける「山鳩味噌」。この無添加の美味しい味噌をてがけるグループが黒倉集落にはあります。その名も「山鳩グループ」。山鳩グループは黒倉集落のお母さんチームで結成されたチームです。山鳩味噌の他、「しょうゆの実」なども手掛けています。また、地域のコミュニケーションの活性化にも一役買っている山鳩グループ。今年の一月と二月には「黒倉茶話会」という企画で地域の人が集まる場を作り、集落での楽しい時間を過ごしました。私も茶話会のチラシ作りや当日の準備などもお手伝いさせていただきました。

そして現在黒倉集落の若手で結成され、地域活性化を担うのが「縄文ノ和 黒倉」。これまで毎年行われている「新そば祭り」の開催や、商品開発、「お試し居住」での移住者誘致、大



△（左）黒倉集落で活躍する「山鳩グループ」（右）山鳩グループ主催の黒倉茶話会



△パレス黒倉の雪掘りを行う「縄文ノ和」メンバー



地の芸術祭の作品誘致や黒倉の芸術祭作品「パレス黒倉」の運営など、様々な取り組みを行ってきました。私も協力隊として新そば祭りの準備や「パレス黒倉」の運営準備など様々な縄文ノ和の活動に関わらせていただいています。

地域一丸となって様々な活動に取り組む集落のグループに参加できていることに協力隊としてとても嬉しく思います。